

## 江戸の街 開発物語

江戸城と言うと我々は江戸時代を思い浮かべますが、最初に太田道灌の江戸城が出来てから今日まで540年が経過しています。

鎌倉、室町、安土桃山時代を経て江戸時代となりますが、江戸城＝江戸時代とってしまうほど徳川300年の歴史は我々の日常の環境に大きな影響を与えています。

今の大都市東京の町、特に都心部においては、ほぼ江戸時代の上に近代都市が乗っているようなものです。

高速道路は当時の運河を潰し、または運河の上空を通過するように作られています。

当時どのような考え方で江戸の街づくりをしたのか？ どのような体制で街づくりを行ったのか？ に興味を覚え様々な本、資料を見ることになりました。

江戸の街づくりは家康入府から四代将軍家綱にわたる70年間を要し、東京の原型である江戸の街が完成しました。

太田道灌はなぜ今の場所に江戸城を築いたのか？ 家康はなぜ平地の少ない江戸で海に向け埋め立てによる領地拡大を行ったのか？ 江戸の街は市民にとってどんな街だったのか？ をお話しさせていただきたいと思います。

